



2026年4月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本塩町2-11
THE YMCA神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/小澤 昌甲
編集/本部事務局
印刷/石川特殊製本株式会社

YMCA News



年間聖句 「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」
イザヤ書43章5節より

神戸YMCA中期計画2030

総主事 小澤 昌甲 まさき

神戸YMCAは、1886年(明治19年)に、神戸市諏訪山にありました紅葉館で「神戸キリスト教青年会」として産声を上げました。当初は宣教師たちによって行われていた聖書朗読、英語教育、祈禱会などを開催し、未来を創る若者の育成を始めたのです。その後、戦争や震災の災禍に遭い建物を失ってもその歩みを止めることなく、キリスト教主義に基づく社会教育機関として、多くの会員(YMCAを選択してくださった方々)やワイズメンズクラブ、協力者の皆さんと共に歩んできました。



多くの関係機関や団体と協働し、子どもや若者を育むウェルネス事業、地域子育て支援を含む教育・保育・福祉事業、外国人を対象にした日本語教育や専門職教育を行い、そのすべての活動・事業にボランティアの人々が参加・参画しています。人々に、社会に仕える人として、世にボランティアを輩出する組織文化を生み出してきました。

私たちは、子ども、若者、家族、地域の高齢者ら、すべての人々を対象に、1. 子どもが育つ体験の場、2. 若者が育まれる活動の場、3. 家族や地域の方々が健康に生き、生かされる活動の場、4. 外国人も含めた多様な方々と共に生きるための活動の場、を展開していきます。人口減少、少子化、高齢化する縮減社会において、変化に素早く対応できる力、曖昧な状況下でも自分で考え行動する力を養い、イエス・キリストの生き方を学びつつ、かかわる人々との交わりの中で学び、人に仕える愛と奉仕の心を育てていきます。

この分断する社会のなかで、未来に向けて「愛と奉仕の生き方を学び、すべてのいのちが尊ばれ、共に支え合う公正で平和な社会と世界」を創り出したいと願っています。

神戸YMCA中期計画2030



1) 使命

私たちは、イエス・キリストにおいて示された、愛と奉仕の生き方に学びつつ、すべてのいのちが尊ばれ、共に支え合う、公正で平和な社会を創ります。

2) 目的

私たちは、さまざまな人々が出会い、つながり、学びあう居場所をつくり、「SPIRIT(精神)」「MIND(知性)」「BODY(身体)」の調和のとれた全人的な人間の育成を目指します。

3) 使命実現のための柱

1. Community Wellbeing

＜精神、知性、身体のバランスの取れた成長＞

未来を創る子どもたちの居場所、家族の居場所をつくり、一人ひとりの育ちを支えます。



Community Wellbeing

2. Meaningful Work

＜やりがいのある仕事、教育と雇用環境の創造等＞

ユースをはじめ、さまざまな年代の方々とつながりとかかわりを広げ、集い、学びあう場を共に創ります。



Meaningful Work

3. Sustainable Planet <持続可能な地球のために>

希望のある社会を創るために、ポジティブネット(前向きなつながり)のある豊かな社会を目指します。



Sustainable Planet

4. Just World <公正な世界の実現のために>

さまざまな団体との積極的なつながりと協業を進め、未来の社会への責任を担い、ボランティアが参加・参画する場、活動の場を提供し、会員活動の基盤を強化します。



Just World

全国YMCA教育・保育管理職研修会

2026年1月30日(金)～31日(土)、神戸YMCAを会場として、全国YMCA教育・保育管理職研修会が行われました。全国15のYMCAから約80名の参加があり、仲間と共に学びの時を持つことができました。

2日間の研修では、「YMCAらしい教育保育を考える」をテーマに、「子どもにとって家庭とは～里親運動半世紀の実践から～」 「YMCAと教育保育」「礼拝・キリスト教保育の意義」について講義を受け、これからあるべき教育保育について考える機会を持つことができました。





No.5

叱ることは悪？

総主事 小澤 昌甲



賀川豊彦氏は、大正から昭和期に活躍したキリスト教社会運動家であり、「生協の父」としても知られています。彼が提唱した「子どもには食べる権利があり、遊ぶ権利があり、そして叱られる権利がある」という言葉は、現代の児童福祉の原点ともいえる深い意味を持ちます。

1. 食べる権利(生存の保障) “子どもが飢えることなく健康に育つことは、慈善ではなく「当然の権利」である。”神戸の貧民街に移り住んだ賀川は、まずお腹を満たすことが人間の尊厳を守る第一歩だと考え、給食活動や経済的支援に尽力しました。
2. 遊ぶ権利(成長の保障) “子どもが自由に遊び、想像力を養う時間は、精神的な成長に不可欠である。”当時は幼い子どもが工場などで働く「児童労働」が一般的でしたが、「子どもの仕事は遊び」であると明確に打ち出したのです。
3. 叱られる権利(教育・愛情の保障) “悪いことをしたときに正してもらう(教育を受ける)ことは「一人の人間として真剣に向き合ってもらふ権利」である。”放っておかれない(無視されない)社会づくりや、子どもが道徳を教わる権利を指しています。

賀川は、親がいない子や家庭が崩壊した子どもたちを支援していました。彼らは悪いことをしても誰からも注意されず、そのまま社会から孤立していきました。「叱られる権利」という表現に、「大人が責任を持って、子どもの人格を認め、真正面から向き合うこと」を促す彼の強いメッセージが読み取れます。

現代社会では、子どもの自己肯定感を高めるために、また、コンプライアンスの視点から、大人が叱らない、叱れないことをよく耳にします。褒めることが善で、叱ることは悪であり、虐待であるかのような風潮もあります。しかし賀川の言う「大人が責任を持って、子どもの人格を認め、真正面から向き合うこと」が、子どもの「叱られる権利」、すなわち「愛される権利」を守ることであるならば、間違いは間違いであると正していく責務が大人にはあると思うのです。

虐待は決して容認できません。しかし「叱ることが悪」という考えをもう一度問い直すことが必要ではないでしょうか。なぜなら私は、愛される経験こそが、人を変えると信じているからです。

2026年度 年間聖句決定のお知らせ

ミッション委員会担当職員 水野 宏明

多くの候補の中から、神戸キリスト教青年会ミッション委員会において、2026年度の年間聖句が以下の通り選定されました。

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」
(イザヤ書43章5節より)

この言葉は、かつて国を追われ苦難の中にあつたイスラエルの民に対し、神が預言者イザヤを通じて「どこにいても、私はあなたを忘れない。必ず連れ戻

し、共にある」と約束した希望のメッセージです。

選定に際しては、この聖句から「一人じゃない」「YMCAはあなたと一緒にいるよ」という力強いメッセージを発信できるという意見が多く出されました。また、誰もが「言われてみたい、そして大切な人に言われてみたい」と感じる、慈愛に満ちた言葉でもあります。

この心強い約束を胸に、2026年度も皆さまと共に歩んでいけることを感謝いたします。主の平和が皆さまと共にありますように。



2026年度 ボランティアリーダー募集

神戸YMCAでは、2026年度の活動を共に支えてくださるボランティアリーダーを募集しています。

募集するのは、キャンプや野外活動、発達障がい児の学習・運動支援、国際交流や学童保育をはじめとした子どもの放課後の居場所づくりなど、多岐にわたる現場で活動するリーダーです。現在、中高生・大学生からシニア世代まで、幅広い年代の方がそれぞれの持ち味を活かして活躍しています。専門的な知識や経験は問いません。大切なのは、子どもたちの成長

に寄り添い、地域社会の一員として誠実に行動しようとする志です。

活動にあたり、YMCAの理念を学ぶ研修を実施するほか、経験豊かなスタッフによるサポート体制を整えています。あなた自身の可能性を広げ、誰かの笑顔を支える一歩を踏み出してみませんか。

皆さまの積極的なご応募を心よりお待ちしております。詳細は神戸YMCA本部事務局までお問い合わせください。



問合せ

神戸YMCA本部事務局 TEL 078-241-7201

Eメール info@kobeymca.org

YMCAピンクシャツデー 2026年2月25日(水)

本部事務局 大塚 永幸



2月の最終水曜日は、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す「ピンクシャツデー」です。今年も2月25日(水)を中心に、差別や偏見、分断ではなく誰もが安心して暮らせる社会の創造を目指したさまざまな取り組みを行いました。その一つをご紹介します。

西宮つとがわ保育園では、子どもたちに好きな色や好きな食べ物を尋ね、「みんなそれぞれ好きなものがある。同じこともあれば、違うところもたくさんある。違っていいんだ。それを認め合えたらすてきだね」という話をし、祈りの時

を持ちました。

保護者の皆さんには、YMCAが取り組む「キャラクターディベロップメント運動」について考える機会を持ってもらいました。玄関に「やさしくするところ」「しょうじきなところ」など、成長の過程で身につけてほしい4つの価値観を掲示し、子どもたちに「おうちの人と一緒に考えて書いてみてね」と声をかけました。

これからもYMCAの中だけではなく、家庭やつながりのある地域の諸団体とも連携して、これらの運動を広げていきたいと思ひます。



R E P O R T

浜脇留守家庭児童育成センター

けん玉検定

小学校低学年の子どもたちが通う育成センターでは、毎年1月から2月にかけて「けん玉検定」を行っています。子どもたちの表情は自然と引き締まり、自分の技に真剣に向き合う姿が見られます。一発勝負の緊張感のある検定ですが、安心して取り組める環境の中で、自分の力を試す大切な機会となっています。

日頃から「もう一回やってみる」と繰り返し取り組んできた努力の積み重ねが、子どもたちの自信につながっています。お友だちが合格すれば自分のことのように「やったー!!」と拍手が起こり、うまくいかなか

たときは共に悔しさを分かち合っています。そんな仲間との関係の中で、育成センターの子どもたちは今日も成長しています。

子どもたちの努力や失敗を大切な経験として一緒に受け止めながら、育成センターが彼らにとって安心できる居場所であり続けることを願っています。



放課後外遊び事業

校庭を遊び場に！～子どもたちの豊かな放課後づくり～

神戸市中央区役所地域協働課からの委託を受け、中央区にある山の手小学校校庭を会場に、1月20日(火)から2月17日(火)までの毎週火曜日、5回にわたって、約1時間の「放課後外遊び事業」を行いました。中央区内の子どもたちに外遊び環境を提供することで、心身ともに健康な子どもの成長を促進し、校庭を活用した外遊び環境が継続的に創出されることを目的に実施しました。

2年生から6年生の希望者約70名が参加し、キャ

放課後外遊び事業担当職員 大塚 永幸
ンプリーダーや児童館にかかわっているリーダー、スタッフと「鬼ごっこ」や「ドッジボール」「長縄跳び」などの外遊びを楽しみました。YMCAからは、スポーツと自由な遊びを融合させた運動遊びプログラム「JUMP-JAM(ジャンジャン)」を紹介。参加した子どもたちは全力で取り組んでくれました。

神戸YMCAでは、子どもたちに安全で楽しく、豊かな放課後の時間を過ごしてもらえる環境を、これからも整備してまいります。



神戸YMCA学院専門学校 ホテル学科

冬期実習

1年生にとって2回目となる実習が行われました。冬の実習では、前回の夏の実習よりも成長し、さまざまな気付きを得ている学生の姿が印象的でした。実習地訪問の際の学生の声をお届けします。

「夏は恥ずかしくてできなかったお客様との対応が、冬の実習では勇気を持ってできるようになった」

「指示を待つだけでなく、自分から進んで動けるようになった」

「夏はレストラン業務、冬はベルという異なる業務

に挑戦することで、適性がわかった」

「ホテルによって接客スタイルが違うことがわかり、自分が働いてみたいホテルの系統を知ることができた」

できなかったことができるようになった喜びは、大きな自信につながったことと思います。また、新たな業務に挑戦した学生は、将来の方向性を考えるきっかけとなったようです。学生たちにとって実りある実習になったと感じています。



グランドエクスプレ鳥羽での実習生

こくさいのまど

日本語教育がつなぐ、日台の絆

1月22日(木)、神戸YMCAで「第5回日台YMCA日本留学ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、日本語教育に携わるスタッフの交流と情報交換を目的としています。2020年1月の第4回以来、コロナ禍の影響で一時的に中断を余儀なくされていましたが、このたび6年ぶりに再開することができました。

台湾からは台北・台中・彰化・台南・高雄の5つのYMCAの総主事とスタッフ11名が、日本からは東京から熊本まで12のYMCAの総主事とスタッフ20名が参加しました。

ワークショップでは主に、今後の留学事業に大きくかわる「認定日本語教育機関制度」について議論

が交わされました。文部科学省による新制度への移行に伴い、全国の日本語教育機関は大きな転換期を迎えています。こうした状況下で台湾YMCAとより強固な連携を図るための、非常に有意義な機会となりました。

この20年間、台湾YMCAを通じて数多くの留学生在が日本全国のYMCAに入学しており、両国のYMCAは日本語教育によって固く結ばれていると言っても過言ではありません。留学希望者が日本で夢を叶えられるよう、これからも台湾Y

MCAとのつながりを大切に、一丸となって取り組んでまいります。



YMCA STORY

人生を変えた一枚の折込チラシ ~不思議な縁に導かれて~

須磨YMCA所長 間 勝也

たまに考える時があります。あの日、もしYMCAのチラシを見ていなかったら。別の進路を選んでいたら。キャンプの引率担当にならなかつたら。あるいは、途中でYMCAを辞めていたら……。これまでの歩みを振り返ると、そんな思いが頭をよぎることがあります。

YMCAとの出会いは高校2年生のときでした。新聞折込に入っていた「ウエルネスセンター学園都市」の成人会員募集チラシを目にしたのがきっかけです。そこには、かっこいい筋骨隆々の男性が写っており、「こんなふうになりたい!」と入会を決定しました。

当時の私にとって、明るく迎えてくれるリーダーたちがいるその場所は、学校生活以上に大切な「居場所」となりました。卒業後の進路についても、

他の方から別の道を勧められて悩んだ時期もありましたが、「あのリーダーたちのようになりたい」という一心で、神戸YMCA学院専門学校への入学を選択しました。このときの決断が、現在の働きへと真っすぐにつながっています。

現在は須磨YMCAの所長として神戸YMCAちとせ幼稚園・須磨センターに所属し、毎日たくさん子どもたちと一緒に過ごしています。子どもたちの成長に寄り添える、この貴重な時間を与えていただいていることに、心から感謝しています。あの時、1枚のチラシを手にとっていなければ、今の自分が存在しなかったかもしれないし、大切な人たちとも出会わなかったかもしれないと思うと、不思議な縁を感じずにはいられません。

一枚のチラシが導いてくれた、YMCAとの出会い。これも神様が備えてくださった一つの計画であると信じ、その恵みに感謝しながら、これからも日々の歩みを大切に積み重ねてまいります。

創立140周年記念礼拝

神戸YMCAの創設者の方々に思いをはせ、私たちの気持ちを一つにする機会になればと願っています。ぜひご参加ください。

- ◆日 時：2026年5月9日(土)10:00~11:00
◆会 場：神戸YMCA三宮会館チャペル

神戸キリスト教青年会 総会

神戸YMCAは、2030年のあるべき姿を再度見つめなおし、YMCAの活動に参加・参画する会員の皆さんと、共に生きる主体的な関係(ポジティブネット)を拓き、希望のある平和な社会を創ることを目指します。

そのために掲げられた「神戸YMCA中期計画2030」をテーマに、2026年度総会では会則変更について協議をしていきます。ぜひご予定いただき、共に参加・参画を、どうぞよろしくお願いいたします。

- ◆日 時：6月27日(土)午前
◆場 所：神戸YMCA三宮会館
◆議 事：①会則変更の件
②神戸キリスト教青年会役員候補者推薦の件(常議員改選)
◆問合せ：神戸YMCA本部事務局
TEL：078-241-7201
Eメール info@kobeymca.org

お知らせ

『THE YMCA』発送について

平素は神戸YMCAの活動にご支援を賜りありがとうございます。会員の皆さまに年間10回お送りしている会報誌『THE YMCA』の発送を、2ヶ月分をまとめた隔月(2ヶ月に1回)の発送とさせていただきます。これは、郵送料、印刷費等の高騰に伴う発送経費の見直しと、自然資源等の環境負荷を低減させるためです。削減された経費は、より良い社会づくりのため

の活動資金として大切に活用させていただきます。なお、最新の情報につきましては、日本YMCA同盟のホームページ(https://www.ymcajapan.org/about/newsletter/)でも随時ご確認いただけます。神戸YMCAの新たな社会的使命への取り組みに、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神戸YMCA 遺贈制度

神戸YMCAを遺産の受取人に指定し、ご寄附いただく制度です。神戸YMCAは創立以来、多くの方々の物心両面からのお支えによって子どもと若者を育む先駆的な働きを進めてまいりました。大切な浄財(財産)を未来に遺し、幼い子どもや若者たちのために、そして社会に必要とされる活動を展開できるよう、神戸YMCAが責任をもって大切に役立ててまいります。

神戸YMCAの使命

私たちは、イエス・キリストにおいて示された、愛と奉仕の生き方に学びつつ、すべてのいのちが尊ばれ、共に支え合う、公正で平和な社会を創ります。

Table with 5 columns: Facility Name, Phone Number, Address, Phone Number, Phone Number. Lists various YMCA locations and their contact info.



ワイズコーナー

楽しくなければワイズじゃない

宝塚ワイズメンズクラブ 石田 由美子 さん

宝塚ワイズメンズクラブは1988年生まれで、まだ若手のカテゴリーに入りますが、17名の会員の半分以上は高齢者です。にもかかわらずアクティブに地域で、YMCAで活動を続けています。

最も長く、そして大きな規模で取り組んでいるのが毎年12月に開催する市民クリスマス「みんなでつくるOne Christmas」です。既に21年が過ぎました。

素晴らしい音響効果の宝塚ベガ・ホールで、地域の教会やボランティアによる市民合唱団、ミュージックベルグループ、市内の幼稚園の園児さん、園児の保護者たちのコーラス、関西学院大学神戸三田キャンパスに通う学生のフラダンス等、それぞれが「One Christmas」を作り上げます。いまや多くの方々のアドベントカレンダーに入っていると聞きました。うれしいことです。

「宝塚クラブはなんか楽しいことを考えるね」と言われます。毎年11月のインターナショナル・チャリティーランで、仮装ウォークの常連であるのはご存知の方も多いでしょう。今年は「ブレイメンの音楽隊」のかぶりものを作り、パフォーマンスを繰り広げました。過去には怪獣やミニオンズにもなりました。

「楽しくなければワイズじゃない」を合言葉に、私たちはボランティア活動に取り組んでいます。今年もご協力をお願いします。

感謝 寄附・募金

(敬称略、順不同)(前号掲載以降~2/13まで)

寄附

井出 浩、秀平 悠磨、濱瀬 真知子、岩沖 富子、西本 玲子、星野 昌枝、熊谷 郁子、株式会社サンビルダー、ボンヌール写真室、幸友貿易株式会社代表取締役 幸田 兵衛、神戸YMCAベルクワイアー、芦屋ワイズメンズクラブ、西宮ワイズメンズクラブ、神戸西ワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ、芦屋ワイズメンズクラブ

子ども奨学金

田中 邦康

国際協力募金

吉田 昌義、上杉 直子、福田 陽子、平吉 恵子、井上 真二、中野 ひな、社会福祉法人頌栄会西鈴蘭台頌栄保育園園長 稲付 容子、社会福祉法人頌栄会園長 櫻原 祐子、社会福祉法人頌栄会認定こども園頌栄保育園頌栄児童館、社会福祉法人イエス団友愛幼児園、社会福祉法人聖ミカエル福祉会聖ミカエル幼保連携型認定こども園、社会福祉法人神戸婦人同協会青谷愛児園、社会福祉法人愛児会幼保連携型こども園あゆみ幼児園、啓明学院、日本基督教団須磨教会、神戸YMCAベルクワイアー、神戸ポートワイズメンズクラブ、宝塚ワイズメンズクラブ、12/14 元町街頭募金、YYYフォーラム、西神戸YMCA幼稚園バザー、西宮市立用海育成センター、西宮YMCA保育園、西宮つとがわYMCA保育園、学園都市保育ルーム、西神戸ランチ、西宮ランチまめの木、神戸YMCAちとせ幼稚園、本部事務局

学生生活支援募金

幸友貿易株式会社代表取締役 幸田 兵衛

この他にも、多数の寄附・募金をいただいております。感謝をもってご報告いたします。